【草花の部屋】

カキツバタ（アヤメ科アヤメ属　Iris laevigata ）

和名：カキツバタ（燕子花、杜若、）　別名：カキツ、貌好花（カオヨバナ）

英名：Japanesewater iris、Rabbit-ear iris

キジカクシ目　多年草　　原産地：日本、韓国、シベリア

花言葉：幸せは必ずくる　　花の色：紫、白、青、複色

← 写真-１　カキツバタ
撮影日：2014 年 05 月 23 日
撮影場所：兼六園（金沢市）にて
撮影者：Ｍ　さん

→ 写真-２　カキツバタ
撮影日：2014 年 05 月 23 日
撮影場所：兼六園（金沢市）にて
撮影者：Ｍ　さん

金沢市の兼六園内を散策中に見かけました。

カキツバタは湿地に群生し、5 月から 6 月にかけて紫色の花を付けます。内側の花弁が細く直立し、中央部に白ないし淡黄色の斑紋がある外側の花弁が前面に垂れ下がる特徴があります。

カキツバタは水辺の修景には欠かせない花で、古くから『万葉集』など歌にも詠まれ親しまれています。名前の由来は「書き付け花」で、衣服を染めるのに利用されたことによるそうです。

50 ほどの園芸品種があり、ハナショウブのように外側の花弁が 3 枚の三英花（さんえいか）と 6 枚の六英花（ろくえいか）があります。よく似た花で湿地を好むものにヒオウギアヤメがありますが、こちらは花に網目模様が入ります。

「いずれがアヤメかカキツバタ」といわれるように、優劣がつけがたく区別

しにくいもののたとえとして引用されますが、アヤメは陸生で、一般の草花と同様、水はけのよいところで育ち、一方のカキツバタは水生で、池や沼地など常に水のあるところを好みます。

＜ちょっと一言＞

＊アヤメ、カキツバタ、ハナショウブの見分け方

アヤメ：外側の花弁に網目模様がある
　　乾いた所に育つ
カキツバタ：外側の花弁に網目模様なし
　　外側の花弁に白い斑紋がある
　　水中や湿った所に育つ
ハナショウブ：外側の花弁に網目模様なし
　　外側の花弁に黄色い斑紋がある
　　湿った所に育つ

＊アヤメ類の総称としてハナショウブをアヤメと呼ぶことも多く、間違いにはあたらないそうです。